

# フィールド風

(現場)からの風

守野 高司

上げます。今回の惨事については、現在の状況を鑑みて「イベントは後日に再判断しました。」

11月中旬、三重県桑名市のナガシマリゾート長崎温泉を訪れる。自家用車で約5時間の行程、伊勢湾を望むころには、強い横風に遭遇。しかし多くの車は慣れているせいなのか、気にもしていない様子に驚きを持ってしまふ。ホテルの二泊二食、2日間乗りの物乗り放題のレジャーランド入場券、大笠露天風呂「湯あみの湯」施設の2日間入場券、「なほなほの里ベコニアガーデン」入場券がセットになった旅行商品。割安

11月の日夜に、東北部で強い地震が発生し、広範囲に被害が生じた。被害を受けた皆様には心よりお見舞い申し上げます。また対応に尽力されている関係者に感謝申し上げます。



大勢を集める魅力的なイベント、特に夜の時間帯は地域経済への影響は大きい

感のある価格が魅力的だった。経営者が同じ営業拠点を組み合わせたからこそできた旅行商品になっている。

今回のお泊まりは、ナガシマリゾート50周年を記念した「世界の船」から選ばれた「ナイアガラの滝」をテーマにしたイルミネーションだ。ノーベル物理学賞で船魂の、青色発光ダイオード(LED)が輝くトンネル通

略だけでも魅力だが、「日の出」「大滝」「霧」「水の滝」「水しぶき」「夜」「花火」「誕生」の8つのシーンのプロデュースは、繊細さ、きらめき、ダイナミックさ、幻想、透明感など光で表現されたさまさまな演出は見事だ。

あり、待つて見る余裕もない見学者で平日にも関わらず大混雑。車イスでの見学者、高齢者、子どもたちへの配慮も感じられない。そんな状況の中、「じゃまたな」「早く歩け」の罵声に近い言葉が聞こえてくる。楽しい時間を、切ない気分させてしまふ。主催者側の配慮も大切だが、旅人の心の持ち方も重要だと思ってしまう。

## 生活弱者の視点で地域のあり方を考えてみませんか

ここでも大勢の外国人旅行者に出会う。スマートフォンカメラ機能全開、まるで撮影会場だ。確かに私も、外国に行けば同じ行動だと頭わずはほ笑んでしまふ。特に日本の演出に興味があるようだ。イルミネーションで紅葉が池に映り込んだ場所の木橋の上は、長い時間を掛けたの足音で大混雑している。出口近くの売店に立ち寄り、広い店舗にも関わらず、レジに長蛇の列。たった一人の女子店員がいるにすぎない。盗難にあっても不思議ではない状況。人員がいないのか、人件費をかけて

まで盗難を防ぐ必要が無いという経営判断なのか知りたくなる。ホテルでは、夕食朝食ともバイキング形式を選択。色んな料理にチャレンジし、トレイを持って料理台を回ると、カップルの食事の楽しめ方が気になる。ワインのフルボトルを注文、ステーキーパーから焼きだたのスチーキーばかりテーブルに。本当に満足に食事を楽しんでいる。その旅慣れた客に感心してしまふ。自分も体験したいと思ひ、料理の中から、地元食材の焼きハマグリに果敢にトライ、多くの量を取

るが、料理皿には、常に焼きハマグリが補充される。そのホテルの体制には目を覚ますものがある。お客様の食べたい量は、常に用意しているのだらう。この接客システムがリピーターを増やすに違いない。

の旅を通じて一番気になることは、生活弱者の視点で地域を本気で考えてほしい。これらの人たちに愛される地域とはどうあるべきか考えさせられた旅でもあった。

(NPO)法人高州地域社会フォーラム理事・白馬村森 七